

第7回 第14期小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 平成27年11月9日（月）午後6時30分～午後8時30分
- 開催場所 小平市役所 6階 601会議室
- 出席者 椎名委員、山田委員、松根委員、佐野委員、田中委員、根津委員
菊地委員、千葉委員、丹治委員、宮村委員、川島委員（順不同）
- 傍聴人 あり（2名）
- 議題 (1) 第14期の検討課題について
(2) その他
- 配付資料 (1) 第7回 第14期小平市緑化推進委員会次第
(2) 緑化推進計画提言 三訂（案）

会議の要旨

委員長

——緑化推進委員会提言三訂（案）の説明（内容省略）——

委員

P6 2（仮称）鷹の台水車公園「水車復活」事業の推進について、同じく水車のある小平ふるさと村との違いを明記したほうがよいのではないかと。

委員長

おっしゃるとおりだ。我々の祖先が地形をうまく利用して水路を使っていたという証明が水車公園であるということを明記する必要があるだろう。

委員

同じ個所で、「水資源を地形を巧み利用していたことを・・・」の記述は訂正が必要ではないかと。

委員長

「水資源と地形など、巧みに利用していたことを・・・」と訂正する。

委員

同じく P6 の「用水路特区」の項の記述に関して、「水中生物」とあるが、今は「水生生物」と言うのが一般的だろう。

委員長

確かに「水中生物」と言うと限定的になってしまうので、「水生生物」と改める。

委員

P6 市内・隣接し駅からグリーンロードアクセスの充実について、八坂駅、萩山駅、玉川上水駅などは他市になるため、レンタサイクルでは使えないのではないか。

委員長

「アクセスの充実」と「レンタサイクル」は別物と考えている。

アクセスという点では、この中で、7「駅毎」水・緑名所の創設という項目もあるが、これは鉄道事業者にやってもらいたいと考えている。利用者を増やしたいという目的においては我々と一致している。

一方、レンタサイクルについては小平市内の駅にある全ての公営自転車置き場の利用を想定したものである。

委員

レンタサイクルについて、狭山・境緑道には自転車道と歩道とがあるが、自転車道は広く歩道は狭いということもあり、自転車道を歩く歩行者が多い。そこで、グリーンロードにおける自転車の利用率が高まると、歩行者と自転車の接触事故が増える可能性があるのではないか。

委員長

安全に配慮した記述を付け加えてもいいかもしれない。

レンタサイクルをグリーンロードで利用してくださいと言ってしまうと、そのような問題が起きる。しかし、利用するに当たっては必ずしもグリーンロードを通る必要はない。ただし、もちろん通りたい人もいると思われるので整備は欠かせないだろう。

施設整備を行って需要を呼び込むか、需要の増に伴って施設整備を行うかという問題はあるだろう。

委員

そのことに関連して、本日、小・中学校の自転車利用に関する会議に出席をしてきたが、その中で、小平市では平坦な分、幼児から高齢者まで多くの人が自転車を利用するため、自転車の事故が都内でもかなり多くなっているということだった。

そういう意味では、自転車を利用するにはいい環境だが、それを利用するマナーはいいとは言えない。

そういう点は考慮しながらも、やはりこういったものがあつた方が観光客の誘致や市内の活性化には有効だろう。

委員

市内は狭い道と通りやすい道が両極端なので、おすすめできる道は選べるかもしれない。

委員長

それは、行政としては言いづらい部分があるだろう。安全道マップのようなものを作るとすればNPOなどになるのではないか。

確かに、小平市において、健康で自転車に乗れる世代というのはかなり幅広くなっているかもしれない。

委員

レンタサイクルに関して、近隣の市町村で、隣接する市町村と融合するような動きはあるのか。

事務局

レンタサイクル自体行っている自治体は少ないが、近隣市では立川市が試験的に導入をしている。ただし、これは立川駅に自転車で行く人と、立川駅から自転車を利用する人が自転車をシェアするような形態をとっている。

委員長

立川市は小平市に比べて、昼間人口が圧倒的に多く、また、都心に通勤する人口もあることから、そういった形が成立するかもしれないが、小平では昼間人口がそれほど多くないため、そういった形態は難しいかもしれない。

委員

小平駅の駐輪場は、学生の利用により昼は空いているが土日の間はほぼ満車とのこと。そうすると、電車で来た観光客に向けてレンタサイクルを置くという時に、駐輪場の土日の利用率が高いということが弊害になる場面も考えられる。なので、近隣の市町村と協力関係があれば、ここはいっぱいだから隣の駅まで行ってくれということもあるのかもしれない。

委員長

小平市は近隣市と比較しても自転車の利用がしやすい条件が整っており、事故数が多いというのも、利用率なども勘案しなければいけないだろう。ただし、こういったものを載せて自転車利用を促進する以上、安全に配慮した記述を載せる必要がある。

委員

狭山・境緑道が拡幅されるという話を聞いたがどうか。

事務局

田無の方の樹林に面した部分については、自転車道と歩道間の垣根の部分を削って拡幅を行っている。小平の部分に関しては緑をある程度残した形で行っている。

委員長

自転車専用道となることは、交通の利便性が優先されて緑が喪失される可能性を内包している。そういった意味では、小平が緑で取り囲まれているという状況をエメラルドネックレス計画ということで規定概念化することは重要である。

委員

小平に多く残る農地を今後も残していきたい。農地がなくなれば用水路もなくなってしまう。

委員長

ここで都市農業振興基本法が成立して、これまでとは農地の扱いが変わった。用水路を守るという意味では、水車を作るというのもある意味用水路保全の橋頭堡となり得る。

委員

農地も大事だが農道も残していきたい。青梅街道から鷹の台の方に入っていくとまだ多く残っている。

委員長

青梅街道沿いの街道並木はほとんど残っていないが、裏に入ればまだ屋敷林や農道が残っている。これをどう残していくかという問題である。

委員

社寺林については載せないのか。

委員長

小平名木百選の選定の際に伺った海岸寺や泉藏院などは素晴らしかった。憲法の制約を考慮してのことだったが、我々としては入れることとする。

委員

きつねっばら公園や百石橋などは文化や歴史を感じるもので、また周辺は緑が豊かなので、加えてはどうか。

委員長

そういった意味では文化施設として、なかまちテラスなども加えてもいいだろう。

事務局

P6 3 (仮称) 中島長「雑木林特区」の創設に関して、「構造改革特区」という言葉が使われているが、法律の中では特別に規制の緩和を受ける区域をこのように呼んでいるため、東京都の歴史環境保全地域に指定している箇所でも特区という言葉を使うのは誤解を招く可能性がある。「体験ゾーン」などと言った言葉に置き換えるのが適当ではないか。

委員長

あえて目を引くような表現をしたが、もう少し適切な表現を考える。

以上